

読書のすすめ ～読解力を身につけるために～

朝夕めっきり涼しくなり、秋もずいぶんと深まってきました。秋は「〇〇の秋」にたとえられるように、何をするにもいい季節とされています。その中でも代表的なものとして、「読書の秋」が挙げられます。

そもそも「読書の秋」という言葉が使われるようになった由来をご存知ですか？中国・唐時代の文人である韓愈（かんゆ）が残した詩の中に、「燈火（とうか）親しむべし」という一節があります。その意味は、「秋になると涼しさが気持ち良く感じられ、あかり（燈火）になじむようになる」。つまり、秋は読書に一番適した季節であるということを表したこの言葉が、読書の秋の由来とされています。



また、秋は気温が14度～16度と脳の活動に最適な温度になるため、読書や勉強に没頭しやすい時期なんだそうです。

「新しい読解力」3つの力

書いてある文章の内容を正しく読み取る力である読解力は、国語だけに限らず、多くの教科で欠かせない力です。「学習指導要領」では、子どもたちの読解力に力を入れています。その読解力は、より広い意味でとらえられています。

文章全体を正確に「読み取る力」

まずは、文章の内容を正しく読み取るために、書かれていることについて「何が書かれているか（解釈）」の材料になる情報をおさえながら読みます。例えば物語であれば、登場人物や場面の様子・会話・場面展開などを正しく読み取っていくことが必要です。

内容について「考える力」


物語であれば「なぜ登場人物がこのような行動をしたのか」、説明文であれば「なぜ作者はこんなことを書いたのか」など、文章から読み取った情報をもとに、自分なりに考えます。

自分の意見を「表現する力」

文章の内容を読み取ったうえで考えた、自分の意見や感想を表現します。そのとき根拠も述べるのが大切です。相手に説得力をもって伝えるための、「論理的に表現する力」が必要です。

読解力を養うために読書は欠かせません。しかし、読書の習慣は急に身につくものではありません。そこで、読書の習慣を身につけるための簡単なポイントを紹介합니다。


身のまわりに本を置く




本に興味をもつためには、本を身近なものにすることが大切。図書館で本を多めに借りて、リビングなど目につきやすい場所に置いておくと、空いた時間などに手軽に本を手にとることができます。

親が読書する姿を見せる

おうちのかたの読書を楽しむ姿が、子どもたちの本への興味を高めまます。本でも雑誌でもかまいません。まずはおうちのかたが、本を楽しんでみてください。



同じ本を読んで感想を言い合う



同じ本を読んで、親子でおしゃべりしてみましょう。本を通じた親子のコミュニケーションが、「読書は楽しい」という気持ちにつながっていきます。

《 P T A図書をご利用ください 》

教室棟のたんぽぽ教室横に、P T A図書の本棚があることをご存知ですか？

現在60冊程度の蔵書があります。本を借りる時は貸出記録ノートが置かれているので、そこに書名・借りた人の名前を記入していただくと、いつでも借りることができます。返却時には、返却した日付を書いておいてください。また返却は、児童を通じてしていただいてもかまいません。

どんどんご利用くださいね！！



読書の秋、本に親しもう！